

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070600764		
法人名	株式会社 エルダースービス		
事業所名	グループホーム 牧水の丘		
所在地	福岡県北九州市八幡東区東鉄町5-1		
自己評価作成日	平成23年3月7日	評価結果確定日	平成23年6月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、入居者様の意思を尊重しながら、ぬくもりのあるサービスを行っている。お一人お一人とのコミュニケーションを大切に、いつも笑顔で楽しく生活して頂けるように心掛けている。出来る事は自分でしてもらい、無理のない範囲でお手伝いをして頂いたり、室内外でのレクリエーションや、共同作業にて、入居者の皆様同志、職員との絆も築いている。また、昨年より犬を飼うようになって、より一層入居者の皆様の笑顔、活気、楽しみが増え、ホームには暖かい空気がいつも流れている。また犬を通じての近隣の方々との交流も、増えてきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

歌人・若山牧水の歌碑が在る眺望の良い高台に位置し、周囲は樹齢を重ねた樹木に囲まれ、四季の変化を満喫できる環境の中にある。母体法人としてのスケールメリットは、職員のスキルアップや資格取得に活かされ、質の高いケアサービスの提供に結び付けている。個人にあった機能訓練の実施、嗜好やお洒落への十分な配慮、また、選択や表現できる場面で大切に支援しながら、その人らしい暮らしの具現化に向けた取り組みを行っている。家族との連携も強く、運営推進会議や終了後の家族交流会を通じて、意見交換や情報共有を図り、信頼関係の構築に努めている。認知症の方々にとっての「今を生きる」という視点を大切に捉えながら、温もりのある日々の暮らしが営まれている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は、誰にでもすぐ目につく所に掲示している。毎日の朝礼で唱和し、共有して業務に取り組んでいる。	法人内のグループホームの協議により、理念と方針が作成され、玄関と事務室に掲げられている。毎朝唱和されており、特に新人スタッフは、文言の一つ一つを考えながら唱和を行っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ご近所の方が、入居者の方々の危険がないよう、喜ばれるように、庭の掃除、道の整備を積極的にして下さっている。周辺で採れた山菜など、入居者様に持ってきて下さっている。	町内会に加入しており、町内会長より国勢調査や町内の工事、清掃、防犯パトロールなどの情報を頂いている。地域の文化祭やお祭りにも出かけ、また、ホームにも地域の方やボランティアの来訪が多く、日常的な交流の機会がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学を希望される方は、積極的に受け入れている。その際、悩み等の相談を受け入れている。入居者様の散歩時に近隣の方々と出合った時など、挨拶や気軽に談笑を楽しんで頂いている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加された御家族、町内の方々、包括センターの方と、情報交換、意見交換を行い、日々の業務に活かせるように努めている。	同法人のグループホーム「牧水の丘」と合同で定期的に開催され、その後家族交流会が行われている。家族、自治会、行政担当者と共に、近隣の方の参加もあり、地域に密着した内容の会議となっている。また会議に併せ避難訓練も行なわれ、委員と共に災害対策の重要性を共有する機会とされていた。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村と密に連絡をとり、情報を得て、ケアサービスに役立てている。	運営推進会議や介護保険更新時など、機会ある毎に情報の交換を行なっている。また、ヒヤリハットの段階で報告し、特に感染症に対して詳細に報告を行い、専門的な助言・指導をケアサービスに活かしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	セミナーや、外部、内部研修にて学習し、身体拘束のないケアを実践している。	車椅子を使用する方への細やかな心配りや、また言葉による抑制について、日々の業務の中でお互い注意しあっている。玄関は日中は施錠はされておらず、ホームで暮らす犬が歓迎してくれる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	セミナーや、外部、内部研修にて学習し、虐待防止に努めている。		

福岡県 グループホーム 牧水の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度についてのセミナー、研修に参加、職員間で学習して必要な場合は活用できるようにしている。	成年後見制度や日常生活自立支援事業については、勉強会等で学習されており、家族用に説明できる資料も用意されていた。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が決定した際は、入居契約書や重要事項説明書等で、当ホームのサービスについて詳しく説明を行っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様に要望、不満等ないか日々の会話にて引き出せるよう努めている。御家族に対しても、対話を大切に、ちょっとしたご意見を聞き漏らさないように努めている。入居者、御家族により多くの意見を頂けるよう、玄関に意見箱を設置している。	運営推進会議後に家族交流会を開催し、積極的に情報の提供及び収集を行っている。意見や要望が言いにくい家族の状況も踏まえ、アンケートを取るなど、家族からの要望や意見を積極的に伺う機会を設けている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、定例会、個人面談をはじめ、日常でも随時意見を出してもらっている。積極的に意見交換し、日々の業務に反映している。	会議やミーティングにおいて、職員からの積極的な提案があり、日々の支援や業務へ反映すべく、検討を重ねている。また、半年毎に個人面談を実施し、意見や要望を表出できる機会としても活用している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役割分担したり、定例会で勉強する場を作り、それぞれやりがいを見つけてもらえるように努めている。優秀な契約社員は正社員への登用を行っている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたっては排除行為は無い。各職員はそれぞれの能力を活かしながら業務にあたるように配慮している。	職員の採用にあたっては、グループホームとしての面接を行い、人柄を重視した採用を行っている。採用後も半年毎の個人面談を実施し、状況や意向を確認し、特に資格取得に向けた支援を充実させている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権に配慮したケアを行うよう常に日々努力するように、指導、教育を行っている。	法人内の研修や新人教育にあたり、身体拘束廃止や高齢者虐待防止等を通じて、職員への人権教育、啓発を行っている。	

福岡県 グループホーム 牧水の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部研修、講習会を行っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと相互訪問したり、市主催のグループホーム交流会に参加し、意見交換、情報交換を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に会話を大切にし、本人の思い、希望などを伺い、出来る限り希望に沿った生活を送ってもらえるように努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居以前の家族との関係、家族からの要望を詳しく伺い、本人にとって最適と思われるケアを心掛け、本人、家族に信頼してもらえるよう努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居直前の詳しい情報を家族や関係機関から入手し、入居直後の本人の状況と照合し、今どんなサービスが必要であるかを見極めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に入居者との会話を大切にし、今なにを感じて、何を思っているを考えている。その人の喜び、悲しみその他を共感できるような関係を築いている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしなが、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族とのこれまでの歴史、絆を第一に考え、近況をお伝えしながら、共に喜び、共に考えて支援している。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の電話、来訪を常に歓迎している。時には馴染みの場所、懐かしい場所に訪れている。	家族構成や交友関係についての情報を職員間で共有している。家族や旧知の方が来訪した際には、共に接待し歓迎している。また、家族の協力で、正月やお盆のお墓参り、故郷の馴染みの場所に出かけている。	

福岡県 グループホーム 牧水の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	気軽に入居者同士が会話したり、助け合えるよう に日常での係わり合いを大切にしたり、共同作業を してもらおう等で、一人ひとりが孤立する事がない ように努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した入居者のお見舞いに伺ったり、家 族の相談に応じたり、季節のお便りの交換 をしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	常に会話を大切にして、入居者の気持ち、 願いを聞きだしたり、出来る限り希望にも沿 えるようにしながら、本人本位の生活を尊重 している。	定期的にあセスメント情報の見直しが行われ ており、これまでの記録に重ねて、新たな情 報を追加記載している。また、日々の言動が 詳細に記録され、希望や意向の把握に向け た検討を重ねながら、職員間で共有してい る。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	家族から、これまでの生活についての詳し い情報を提供してもらったり、それまで利用 していた介護サービス機関から情報提供し てもらっている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	常時入居者の様子観察を行い、心身状態 や能力に応じたケアを行っている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人や家族の要望を第一に考え、関係者と ケアカンファレンスを行い介護計画を作成し ている。	担当者会議には、家族や医師、看護師等の 参加がある。日々の記録や毎月のモニタリ ングにより、計画の検討が行われている。具 体的に示された内容は、日々の暮らしにつな がりやすいものとなっている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の入居者の様子やケアの内容を記録 し、以後の介護計画に活用している。		

福岡県 グループホーム 牧水の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに応じた対応が出来るよう、他事業所やその他の関係機関との連携を図り、必要な情報提供に努めている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて地域の警察、消防、文化・教育機関等との連携を図っている。地域の市民センターの催事、お祭りに参加したり、ボランティアの訪問がある。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医の往診があり、健康状態に問題が生じた時には受診するなど、適切な処置を受けている。又、往診、受診結果を随時家族に報告している。	個別の意向や状況にあわせて、これまでのかかりつけ医や、ホームの協力医への受診を支援している。訪問看護師や医師との情報共有を図りながら、日々の健康管理につなげている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来て、入居者様のバイタルチェックを行っている。その際、入居者様の状況を細かく報告相談し、指示、助言を受けている。常に、主治医との連携を行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、出来る限りお見舞いに行き、家族、看護師から容態の情報提供をもらい、把握をするようにしている。また、病院のソーシャルワーカーと連絡をとり、病院での状況、治療方針、退院までの計画等を話し合っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアの方針を作成しており、「かかりつけ医や家族とも話し合っている。かかりつけ医の判断、家族の要望を伺い、常に本人の状態を検討しながら出来る限り支援を行っている。	終末期のケア方針をもとに、「看取り介護の具体的な支援」を示している。かかりつけ医や訪問看護師との連携は充実しており、家族との話し合いを重ねながら、方針を共有している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に応急処置や緊急時の対応について訓練や研修を行っている。		

福岡県 グループホーム 牧水の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行っている。日頃より、近隣の方に災害時の協力をお願いしている。	運営推進会議に併せて、避難訓練が行なわれており、家族や委員からも助言を受けている。避難場所も、出火場所に応じて3ヶ所設定されている。また、災害対策としての備蓄品も用意されている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にプライバシーに配慮した支援を行っており、知りえた個人情報を他に漏らすことのないよう、そして入居者には個人の尊厳を尊重した対応を行うように全職員が注意している。	個々人の情報を踏まえ、その方にあった声かけや意志を確認している。レクリエーション参加時には必ず意向を確認し、また、衣服の好みや選択する場面を大切にしている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意見を尊重し、自己決定、自己判断できるような支援を心掛けている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に入居者の希望を優先した生活を、個人のペースに合わせたケアを行っている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の意向を尊重し、時にはアドバイスしながら、その人らしさを大切にしている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人には、食材の下ごしらえ、食事の後片付けを手伝ってもらっている。	お膳には、上品に盛り付けられた小鉢が並び、BGMは懐かしい唱歌が流れ、職員と一緒に和やかに食事を摂られている。テレビ番組やチラシに載っているレシピ等を見ながら、嗜好を探り、食への関心を引き出しながら、献立に反映したり、評判のケーキ店まで足を運ぶこともある。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの毎食の食事水分摂取量を把握し、必要に応じて、声掛けしたり、その方の状態に応じた対応をして、栄養、水分が確保出来るよう支援している。		

福岡県 グループホーム 牧水の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じて、声掛けをしたり、介助を行い、常に口腔内の異変を見逃さないようにケアを行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、必要に応じてトイレ誘導を行うなどのケアを行っている。	バイタル表にて排泄状況がチェックされ、パターンや必要な水分量の把握が行なわれている。個別の状況に応じて、必要な介助や機能維持に向けた取り組みを行いながら、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便のチェックや、排便パターンを把握して、トイレ誘導を行ったりしながら、便秘予防を徹底している。必要に応じて、主治医に相談している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人に希望を聞いて、入浴したい日や時間に合わせて入浴をしてもらっている。	2日に1回の入浴日の設定はあるが、毎日入浴が可能な為、希望やタイミングに沿って、曜日や時間に関係なく入浴支援が行われている。状態に応じて複数の職員で介助を行い、またリフトの設置等、安心、安全な入浴を心掛けている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調、気分に沿った時間に就寝できるように、その他日中も必要に応じてお昼寝をして頂いている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬について理解しており、処方が変わった時は、その後の様子観察を徹底している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る人には家事を手伝ってもらったり、趣味を楽しんでもらったり、大好きなレク等を取り入れ、気分転換が出来るような支援を行っている。		

福岡県 グループホーム 牧水の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>地域のお祭りや、ドライブに出掛けたり、散歩をしながら、地域の方々との交流を深めている。</p>	<p>機会ある毎に、少人数で希望の場所にドライブに出かけており、季節感を感じてもらう為に、あえて寒い日の外出もあった。また、家族との散歩やドライブにも出かけている。外気にふれることには特に留意し、リビングに隣接したウッドデッキで茶話会等を行い、日光浴、外気浴、森林浴を行うことができる。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>全員ではないが、欲しいものを自分で買えるように支援している。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望があれば、いつでも電話や手紙のやり取りをしてもらっている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は、明るく家庭的で、季節を感じられるようにしている。</p>	<p>眺望のよい大きなガラス窓からの採光や換気により、それぞれのお気に入りのソファやテーブルで、四季の変化や日中の時間の経過を体感されている。台所からは三度三度の調理の音や職員の声が伝わり、リズムある生活の落ち着いた雰囲気となっている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングには、ゆっくりとくつろげるソファ、テラスや玄関には、椅子を置いて、いつでも気軽に外に出て、庭の花を眺めたり、空気を楽しんだり、入居者同士で談笑できるような空間を作っている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で慣れ親しんだ家具や仏壇があり、御家族からのプレゼント、メッセージカードや、御家族や友人の写真が飾られている。</p>	<p>家族と共に、折々のスナップ写真や誕生日に描かれた似顔絵、小物等の飾り付けがなされ、使い慣れた鏡台や筆筒等、馴染みの家具やベッドのレイアウトも、その人らしく、暮らしやすく工夫されている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>可能なかぎり自立して、安全な生活が送れるように物理的環境を整えている。(段差のない床、照明の場所や明るさ、要所への手すりの設置、椅子の滑り止めを使用。)</p>		